

心身をととのえる空間へ 外出先トイレの新たな利用実態

職場やまちの施設*など、外へ出かけた際に利用する「外出先のトイレ」。
最近では、用を足したり、手洗いといった従来のトイレの利用だけでなく、
心身のケアなど、プライベートな空間であることに着目した、新たな使い方が広がってきているようです。

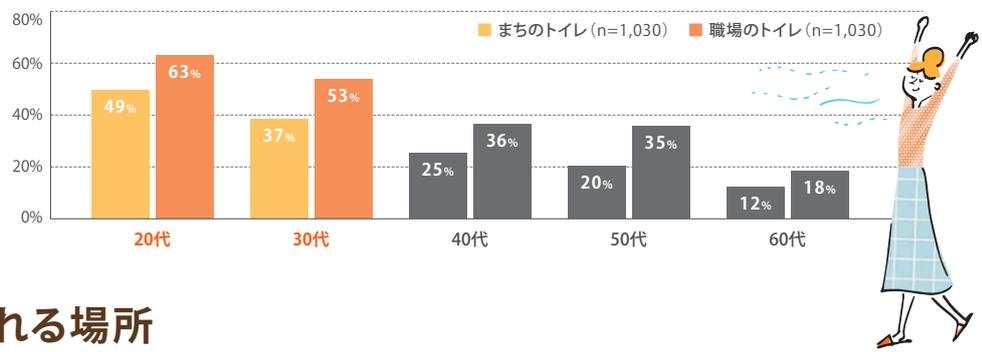
*まちの施設とは、店舗や公共施設などまちの中にある屋内施設のこと。

調査データ：外出先のトイレに関する意識調査2024 LIXIL
※グラフの数値はウェイトバック集計後の数値です。

若い世代ほど「休憩スペース」として利用

外出先トイレの利用実態を調査してみると、**20～30代の若い世代ほど休憩や気分転換で利用する**という人が多いことがわかりました。また、どの世代も、職場のトイレのほうが多く、20代は6割以上の人にその経験がありました。

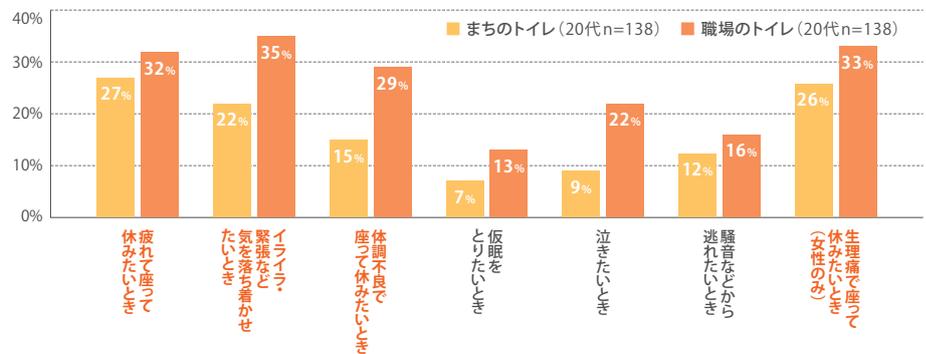
Q. 休憩・気分転換のために、トイレを利用したことがある？



トイレの個室 = 一人になれる場所

休憩や気分転換のためトイレを利用するという20代に、どんなとき利用するか聞いたところ、**疲れたとき、イライラしたり緊張しているとき、体調不良のとき、生理痛のとき(女性のみ)**という回答が上位に。トイレの個室はプライベートな空間だからこそ、心身をととのえる場所としての役割も果たしているようです。

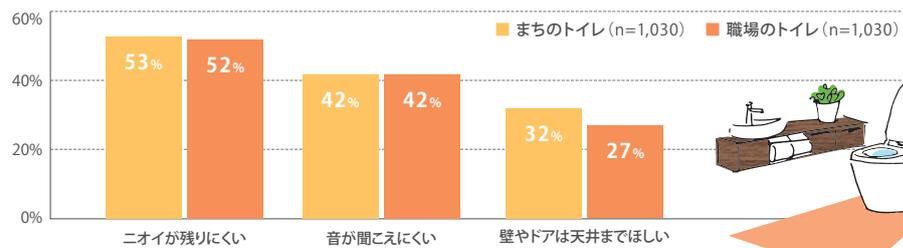
Q. どんなときに休憩・気分転換でトイレを利用した？(複数回答)



求められるニオイ・音・視線への対策

心身をととのえる場所としても利用されるトイレの個室。そこには、求められることとして、**空間のニオイ、用を足すときの音、個室の壁・ドアの高さの順に、ニーズが多い**ことがわかりました。落ち着いて過ごすためには、まずニオイ対策は重要であり、音や視線への配慮も安心につながりそうです。

Q. トイレの個室に求めることは？(複数回答)



POINT!

外出先のトイレは、心身をととのえたいときの拠り所
プライバシーへの配慮が重要なポイントとなります

誰が使ったかわからない… やはり気になるトイレの衛生面

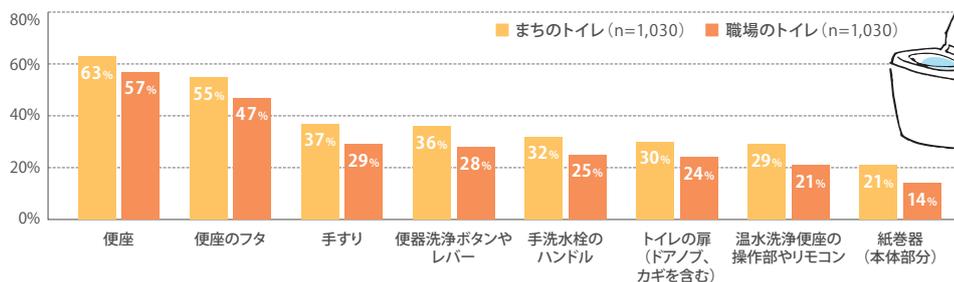
外出先でトイレを利用する際、さまざまな人たちと共用することから、誰が、どのように使ったのか、気になってしまう…というケースもあります。より安心して利用してもらうためには、どのような点に配慮すればいいのでしょうか？

調査データ：外出先のトイレに関する意識調査2024 LIXIL
※グラフの数値はウエイトバック集計後の数値です。

できるだけトイレの中で触れたくない…

トイレ空間で、素手で触れたくないものを聞いてみると、**便座、便座のフタなど、トイレの利用時に触れる一連のもの**に対して抵抗感があることがわかりました。特に、まちのトイレではその意識が高く出ています。

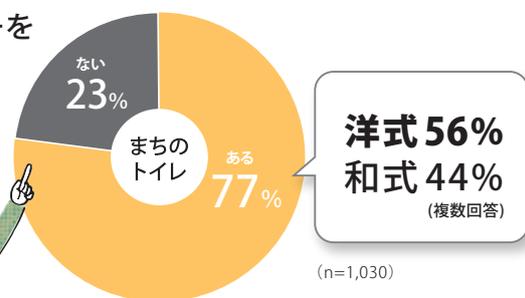
Q. トイレ空間で触れたくないものは？ (複数回答)



7割前後の人が、洗浄レバーを足で操作した経験あり

トイレ空間で触れたくないものの中でも、大便器の洗浄レバーは、素手で触れたくない意識から、**7割前後が足で操作したことがある**と回答。洗浄リモコンへの切り替えや操作の自動化が、利用者の不安解消につながりそうです。

Q. 大便器の操作レバーを足で操作したことがある？



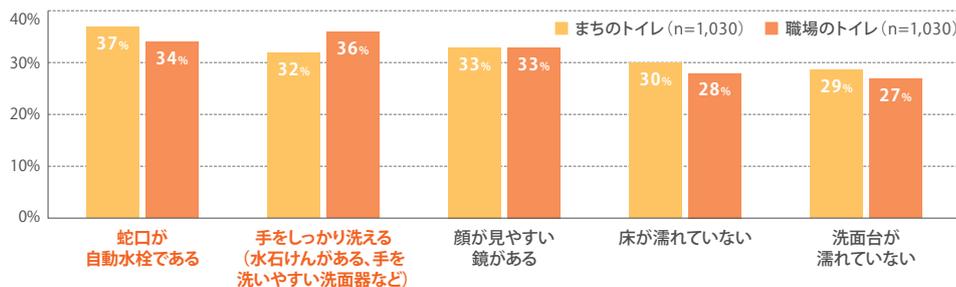
洋式 56%
和式 44%
(複数回答)

洋式 45%
和式 25%
(複数回答)

使用後の手洗いもできるだけ触れずに

手洗い・スタイリングコーナーで必要なことを聞いたところ、**自動水栓である、水石けんで手をしっかり洗える**という回答が上位に。トイレの使用後も、なるべく触れずに手を洗えてキレイを保ちたいというニーズがうかがえます。

Q. 手洗い・スタイリングコーナーで必要なことは？ (複数回答)



POINT!

みんなが使うトイレだからこそ気になる衛生面
非接触ニーズへの対応も配慮ポイントのひとつです